

廖承志研究会第七回研究会

国際シンポジウム「廖承志と戦後日中関係」

日時：2012年3月17日（9：30～15：30）

場所：浙江旅游職業学院（中国）

研究報告：

・第一報告会

報告1

報告者：杉浦康之（防衛省防衛研究所）

報告題目：廖承志と中国の対日情報収集（廖承志与中国的対日信息收集）

報告2

報告者：王雪萍（東京大学）

報告題目：廖承志と中国留日学生・華僑（廖承志与中国留日学生・华侨）

司会：山影統（早稲田大学）

コメンテータ：王宝平（浙江工商大学日本語言文化学院）

・第二報告会

報告1

報告者：胡鳴（浙江旅游職業学院）

報告題目：廖承志、周恩来と日中国交正常化（廖承志、周恩来与中日邦交正常化）

報告2

報告者：劉建平（中国伝媒大学）

報告題目：『廖承志時代』をどう理解するか（怎样理解“廖承志时代”）

司会：大澤武司（熊本学園大学）

コメンテータ：井上正也（香川大学）

報告内容：

浙江旅游職業学院にて国際会議を行った。杉浦氏は、主にLT貿易期における廖承志弁公室東京連絡事務所における中国の対日情報収集について報告を行った。王氏は、戦後、中国が対日政策を展開する上で、留日学生と華僑の問題をどのように処理し、そして協力を求めているのかについて報告を行った。胡氏は、廖承志が対日政策の主導的な役割を担うことになった要因として周恩来との個人的な関係に注目して報告を行った。劉氏は、戦後から国交正常化までの日中関係における交渉を特に情報政治学の観点から報告を行った。

各人の報告が行われた後、質疑応答の時間が設けられ、活発に議論が行われた。